



日本イーストウエストセンター同友会

The Japan EWC Association

ニューズレター 第14号

阪神大震災によせて

JEWCA 会長 川畑 泰

皆様ご存じのように1995年1月17日午前5時46分に、兵庫県淡路島北淡町の地下15キロメートルを震源とする大地震が発生いたしました。これによる阪神大震災で5,500人に近い方々が亡くなられ、数万人に上る方々が負傷され、20万人を超える方々が住む家を失い避難生活を余儀なくされました。震災で亡くなられた方々に哀悼の意を捧げるとともに、親族、友人の方々にお悔やみの意を表したいと思えます。

阪神地区に多くの同友会会員が住んで居られますが、ご自身、ご家族、友人が被害を受けたり、職場が被害を受けたりされた方々も少なからずいらっしゃったと思われます。これらの皆様に心からのお見舞いを申し上げます。阪神地区に住んでいらっしゃる数人の同友会会員から様子をうかがうことができましたので以下に報告いたします。

被害が最もはげしかった神戸市長田区に住んでいらっしゃる神戸商科大学の末延岑生教授(1977年英語教育 EWCLI)は、お住まいが地震のため居住不能となりました。幸い約20年ほど前に購入されていたマンションが無事で、そちらに移り住み、地震でこれまた家がつぶれた87才の身よりのない婦人をご家族で引き取り、その世話を家庭で始められました。また、町内会で夜警パトロールを組織し、自らも参加され、子供さん方も避難所となっている五位ノ池小学校で物資運搬に協力されるなど、一家をあげて

ボランティア活動にはげんでおられます。職場の神戸商科大学は特に被害はなかったということです。

神戸学院大学の笈壽雄教授(1974年言語学 EWTDI)のご報告によりますと、以前勤めていらっしゃった神戸大学では、7人の留学生を含む39人の学生と、教官1名、職員1名が亡くなりました。ご自身の家は無事でしたが、近くで崖崩れがありました。現在勤めておられる神戸学院大学では留学生2名、教官1名とその奥様が亡くなりました。交通網が寸断されたため学校は3月いっぱい休講、4月が短縮授業ということで、5月から通常授業に戻る予定です。

関西学院大学総合政策学部の谷井信一副主査(1982年アジア研究 OG)のお話によりますと、関西学院大学では留学生を含め15名の学生と3名の教官が亡くなりました。住居を失った学生は留学生約40名を含め1,000人以上に上るということで、大学は被害を受けた学生の前期授業料を減免したり、援助金を出す措置をとることになったということです。対象学生数は1,000人以上になりますが、今度入学する学生も対象となります。私立大学の経営上から困難な決定だったけれども、事態の緊急性に鑑みとられた措置だと言うことです。大学の建物はいくつかのものに亀裂ができたり、半壊状態になったものもありました。開学では地震のあと約2,000人の学生がボランティアとして登録し、救援活動に積



阪急神戸線夙川駅付近の被災の様相 (平成7年2月26日 川畑 泰撮影)

極的に参加しています。ご自身のお住まいは倒壊のひどかった西宮市内にあり、ひびが入ったりしたそうです。

神戸市立大学の須藤淳学長 (1961年英語教育ISI) のご報告では、学校の建物にひびがはいった所がありました。教官・職員・学生に死亡者はませんでした。ご自身の住居は損傷なかったということでした。神戸市外大の体育館は、救援郵便小包の集積基地となり、毎日700~800人の学生や主婦のボランティアが約1ヵ月間仕分け作業に従事したということです。また各地から来たガス、水道、プレハブ住宅工事関係のボランティアのための宿泊場所として、また、建築被害鑑定相談の電話センターの場所として大学が使われたそうです。

武庫川女子大学文学部の池本明教授 (1964年英語教育ISI) の話によりますと、大学の教官3名と学生3名が亡くなりました。校舎はほとんど大丈夫でしたが、研究室の揺れがひどかったので本箱、机、そしていくつかの本がだめになってしまいました。学生の多くが食料品配布や老人看護などのボランティア活動に積極的に参加しているということです。

今回の大震災では、留学生・就学生のなかでは私費で来ている人が多いため、困難に直面しているようです。同友会関西支部ではこのような人々を金銭的に支援するため募金活動を開始されました。関西だけでなく全国の同友会会員

で支援活動に参加したいと思います。義援金の送り先は以下の通りですのでご協力をお願いいたします。

郵便局番号 14490
振替口座番号 20093661
名義 芦田友秀

芦田さん (1967年ITI) は京都のホテルギンモンドの支配人をされています。ご送金下さるときは、備考として“留学生・就学生”と書いて下さい。集まったお金の配付先は未定ですが、関西支部でこれから決定することになっています。送金して下さった方々には分配を受けたところからの受領書を後日お見せする予定にしております。

なお、1月29日にイーストウェストセンター・アソシエーションの南カリフォルニア支部のChristine Sutow 会長より本同友会にファックスがとどき、全米および各地の会員に震災義援金を募り、また救援物資を集めたいという申し出がありました。直ちにこちらから必要な情報を集めてファックスにて送りました。

この報告に漏れた多くの方々にも、この震災でいろいろのことがあったこととお察しいたします。被害を受けられた方々の生活が一日も早く通常の形に戻ることができるよう、また悲しみや苦しみが一日も早く癒されますように心からお祈り申し上げます。

1994年度 日本イーストウェストセンター同友会会計報告 (1994.12.31)

項目	支出	収入	内訳
収入の部			
繰越金		768,610	
銀行口座			158,921
郵便振替口座			373,334
郵便振替口座(2)			69,700
手持ち現金			166,655
広告収入 (那覇東急ホテル)		19,485	
総会会費 (7,000円×17名)		119,000	
会費振込 (本部:5,000円×175名) (註1)		875,000	
(支部:3,000円×14名)		42,000	
利息収入		182	
小計		1,824,277	

支出の部			
1993年度総会経費	178,880		
1994年度総会分担金 (註2)	120,000		
ニューズレター第12号発行費用	211,600		
ニューズレター第13号発行費用	232,767		
総会出欠葉書代	105,600		
支部補助金	110,000		
事務経費 (郵便代など)	22,924		
事務局経費 (註3)	120,000		
小計	1,102,385		

銀行口座	6,842		
郵便振替口座	585,334		
郵便振替口座(2)	69,700		
手持ち現金	60,016		
合計	1,824,277	1,824,277	
繰越金	721,892		

1994年12月31日

上記の通り相違ありません。

会計 浜野 潔 (印)

会計監査 鑑江龍一 (印)

(註1) 会費収入には、1992・1993年度会費25,000円を含みます。

(註2) 例年、総会費用は次年度会計で処理されておりますが、94年度は総会開催が9月になったため、当年度で処理されました。なお、今年度は中部支部主催となっておりますので、経費は分担金 (会場費・交通費補助) のみとなります。

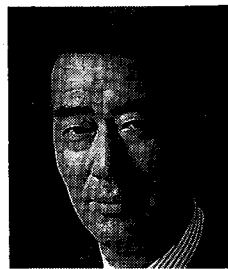
(註3) 事務局経費とは、事務局で使用した電話代、交通費、事務機器 (コピー・ファックスなど) 使用料などを月額1万円として計算したものです。(91年12月12日幹事会において承認済)。

ブルーリボン賞と毎日映画賞受賞 個人新聞も発行開始

— 中村敦夫氏 —

本会では丁度6年前の平成元年3月31日に、1965年度グランティーの中村敦夫氏を招いて講演会を開催したことをご記憶の方も多いかと思いますがその時には、財政苦しい本会のために快く無料でお話を下さりさらに寄付まで頂いたのです。中村氏は昨年は標記のブルーリボン賞と毎日映画コンクール賞を受賞され、ま

た本年1月からは《中村敦夫新聞》を発行するなどめざましい活躍をされています。今回日本EWC同友会ニューズレターのために一筆寄せていただきました。



中村敦夫

長い間、TVの情報番組や、著作活動を続けてきましたが、昨年は久しぶりに俳優生活に戻りました。TVではNHKの「銀行」が評判になりましたし、映画では「集団左遷」に出演しました。この映画で、毎日映画コンクール賞、ブルーリボン賞と、2つも男優助演賞を受賞してしまい、12年ぶりの映画出演だったので他の俳優さん達に怒られてしまう次第でありました。ですから授賞式の私の挨拶の出だしは2回とも「どうもすみません」でした。


夏」で主演、撮影中であります。

今年1月から発行した月刊《中村敦夫新聞》も大変ですが、個人の責任において本当のことをズバズバ発言する日本最初の個人新聞であると自負しています。お陰様で本職の新聞記者が面白がってあっちこちに紹介してくれるので事務所は購読申込の電話が鳴りやまないほどです。えらいことになったと緊張しながら、ライフワークにしようと頑張っています。

現在は、今夏放送予定(NHK)の「官僚達の

個人新聞の時代!!

中村敦夫が、編集長、記者、印刷員を兼任、たった独りの個人新聞を発行している。自由に発言する。顔文字、ユーモア、豊富な体験、鋭い洞察力、ニュースや現象をスリと語る。これができるのは、自由に発言できる個人新聞だけだ。



月刊《中村敦夫新聞》を購読申込みされる方へ!

● 個人新聞の発行に必要なのは、住所・氏名・電話番号・性別を明記の上、「購読申込」と書いて、〒156東京都世田谷区松原3-23-6 (株)中村映画宛にお送り下さい。

● 年間購読料：個人3,000円、法人10,000円

月刊《中村敦夫新聞》

〒156 東京都世田谷区松原3-23-6 TEL. 03-3276-5653

事務局からのお知らせ

「オクセンバーク総長が退任」

イースト・ウエストセンターのマイケル・オクセンバーク総長が3月1日付で退任することが、2月21日発表された。オクセンバーク氏は1992年1月に総長に就任し、以来3年余にわたってセンタープログラムの大規模な見直しを行ってきた。昨年名古屋において行われた同友会総会ではハワイと会場を結んだ電話会談にも参加され、日本の同友会員と意見を交わしたことはまだ記憶に新しい。

退任の理由についてオクセンバーク氏は「わたしの研究分野である中国は大きな変革期を迎えており、これ以上研究の第一線から離れ行政の仕事が続ければ、再び学問の世界に戻る事が難しくなる」と述べている。イースト・ウエストセンターの理事会は、後任が決まるまでの総長代行としてケンジ・スミダ副総長を任命した。

「JEWCA Mailing Address」

事務局への郵便物宛先が変更になりました。本年3月末まで事務局宛郵便物を管理して下さい。亜細亜大学の馬場房子(JEWCA副会長)さんが休暇年に入られるため、1973年度グランティーである外池滋生(とのいけしげお)さんが後を引き受けて下さいました。今後の郵便物は以下の宛先をお願いいたします。

〒108 東京都港区白金台1-2-37
 明治学院大学文学部
 外池研究室内
 日本イーストウエストセンター同友会事務局

なお、FAX連絡先は今まで通り事務局、浜野潔宛です。

Fax: 03-3451-3618
 (慶應義塾女子高等学校 浜野潔宛)

「1995年度会費納入のお願い」

今年度の会費の納入をお願い申し上げます。会費は5,000円です(関西・中部支部の会員は3,000円)。郵便局の振替用紙を同封いたしましたのでご利用下さい。

「1995年版名簿発行予定」

日本EWC同友会では改訂版名簿を1995年7月に発行するべく準備を進めています。これまでは名簿に載っている会員全員にお送りしてきましたが、幹事会では事務局の財政も苦しく、郵送料も高騰している事情から今回は1994年度の会費を納入していただいた会員(別記)、および発送時点で1995年度会費の納入をいただいた方にまずお送りするように決定いたしました。その後の会費の納入会員には暫時送付する予定です。

「EWCのあり方について」

去る平成7年3月16日に標記の問題をとりあげた興味深い原稿がJapan Timesに寄せられ掲載されましたので皆様にもご覧頂きたく、このニューズレターにコピーを同封いたしました。会員の皆様のご意見も事務局宛お送り下されば幸いです。

1964年度日本EWCA会費納入会員御氏名
(年度別、ABC順、1995.2月末現在)

[61年度]
新井 龍二
橋本 光郎
石島 英
石沢 能子
伊藤 侑徳
中司 哲
須藤 淳
上山 英一
山口 正義

[62年度]
橋本 貞雄
本間 恵子
小玉 大円
太田 幹雄
岡田 妙
大山 綱夫
城間 理夫
田村 恭子
富田 光彦
宇佐美 雄司
渡辺 時夫

[63年度]
馬場 房子
Dutta 千鶴子
平敷 令治
日比 敬介
伊波 静男
泉 清人
金子 のぶ
木村 力雄
北 弘志
久保田 晴彦
宮田 元靖
宮内 猛
村田 勝弘
西村 清巳
西村 嘉太郎
野口 福次
太田 秀夫
斎藤 勝彦
島村 政二郎
珠玖 佳久子
寺村 公男
徳永 淳三
内田 幸成

矢野 安剛
吉田 勝知
吉田 和夫

[64年度]
青井 潔
逸見 謙三
池本 明
稲葉 厚
上村 和子
松井 進平
湊 和夫
門田 光雄
村上 嘉一
中村 正枝
中野 圭二
崎原 盛造
真正 囊
竹前 栄治
田中 一郎
綿森 宣行

[65年度]
青木 進吾
福林 昌身
飯塚 成彦
岩城 禮三
金谷 茂
野田 寿
大城 常彦
佐藤 貢
清野 幸子
真正 節子
高田 宜美
高橋 美和子
梅沢 時子
遊道 安隆

[66年度]
木羽 孝子
国師 三起子
宮城 文三
迎町 路美子
末広 稲子
棚橋 啓一
恒川 京子
山本 勇三

[67年度]
芦田 友秀
藤林 修一
藤田 文子
飯田 実
鈴木 伝次
山田 功
安富 徳光

[68年度]
石坂 和夫
片島 保志
仲野 英志
大城 進一
高橋 正夫
屋比久 武
山内 昌和
安江 国浩

[69年度]
土井 正生
林 孝雄
堀口 久生
堀口 純子
神保 尚武
金田 道和
松本 一之
松本 宣光
三浦 徹
宮川 佳三
宇留野 宗嗣
横田 安夫

[70年度]
星野 靖雄
金城 喜栄
中田 清一
鈴木 良子
寺島 樵一
吉田 義法

[71年度]
川合 宏之
宮本 明尚
高仲 颯
田村 光規
田代 茂夫
椿 弘次

土屋 圭造
八木 近直
矢嶋 尚和
吉田 恵美子

[72年度]
羽多野 正美
磯本 泰三
岩田 紀
小村 幹夫
高島 昭一

[73年度]
鑑江 龍一
宮崎 公江
大田 昌秀
田中 靖政

[74年度]
後藤 和彦
寛 壽雄
久米 昭元
中野 貞三
野口 泰生
坂本 悠貴雄
杉田 稔
田中 春美

[75年度]
長谷川 浩一
川畑 泰
大坪 喜子
斎藤 定吉
未延 岑生

[76年度]
木内 義勝

[78年度]
加藤 一郎
沼田 眞
太田 幸夫
高崎 望
上野 明

[79年度]
中山 行弘
高遠 宏

[80年度]
三和 義彦
中山 恵津子
野村 好弘

[81年度]
柿沢 弘治
中臣 久

[82年度]
古橋 政子
原 裕視
大喜多 敏一
吉田 興亜

[83年度]
遠藤 浩一
後藤 昭八郎
猪口 孝
上川 陽子
加藤 剛
小泉 明
永野 芳宣

[84年度]
嘉数 啓
水山 高久

[85年度]
浜野 潔
田中 勝邦
津谷 典子
渡辺 昭夫
横山 英世

[88年度]
衛藤 藩吉
喜多 登
中村 文隆

[90年度]
田中 厚彦

編集後記

ニューズレター第14号をお届けします。
平成7年1月17日に神戸とその周辺をおそった大地震については、余りに多くのコメントがなされていて今さら何を申し上げて良いのかわかりませんが、ただひたすら被害にあわれた皆様にご同情申し上げるばかりです。日本国中だけでなく世界の人々が義援金という形で何か出来たらという気持ちを表したと思いますが、それがどの程度被災者に実質的な助けをもたらすと同時に精神的なぐさめとなったかは疑問です。世界には現在も戦いの中で苦しんでいる人々があります。戦いがなくてさえこれだけ人々を苦しめる自然災害があるのですから、戦いに費やされるお金と知能を自然災害への対処に向けることができたらどんなに良いことでしょう。人を殺すのではなく、命を救うために努力するほうがはるかに素晴らしいことです。(MN)

ニューズレター 第14号

編集発行 日本イーストウエストセンター同友会
発行者 川畑 泰
編集者 中村正枝
〒108 東京都港区白金台1-2-37
明治学院大学文学部
外池研究室内
日本イーストウエストセンター同友会事務局